

事例を通した若年性認知症の方への生活支援

〈基礎知識の整理〉

九州保健福祉大学

作業療法士 小川 敬之

認知症のリハビリテーション再考

Reconsider Rehabilitation of the Dementia

若年性認知症に焦点をあてて

Focus on Early Onset Dementia

平成23年度 老人保健健康増進等事業
若年性認知症の方に対する効果的な支援に関する調査研究事業

(社) 日本作業療法士協会

はじめに

- 認知症は異常蛋白(A β 蛋白、 α シヌグレイン、タウ蛋白など)の蓄積による神経細胞の変性、ラクナ梗塞などにより、記憶の障害そして動作の障害(視空間構成障害、観念運動失行、注意障害、注意の転動など)が重層的に出現し、日常生活の様々な行為に障害をきたしてくる疾患である。
- しかし、同じ疾患であっても私たちが遭遇する症候は人それぞれである。それは認知症特有の症状が、その人固有の生活史と関連し表現されてくるからである。

はじめに

- また、認知症の症候は周囲の環境(家族も含めた関連のある人たち、住んでいる物理的環境など)の影響も大きく、生活環境の把握は、リハビリテーションやケアを提供していく上でとても大切なことである。
- 特にEOD(Early Onset Dementia)の場合、進行も早く、出来ない事への自覚や役割の喪失感に対するサポートは大切であり、その方個人が心に秘める「自尊心(プライド)」をしっかりサポートする関わりがとても重要である。

※「できるはずの自分」が少しずつ失われてゆき、「そんなはずの自分ではない」という思いを持ちながら経過(進行)していく姿にどのように関わっていくか、である。

「認知症の医療と生活の質を高める緊急プロジェクト」

H20/7 厚生労働省

認知症対策；

「認知症の実態の把握」

「研究開発の加速」

「早期診断の推進と適切な医療の提供」

「適切なケアの普及及び本人・家族支援」

「若年性認知症対策の推進」

＜短期的対策＞

- I : 若年性認知症の係る相談コールセンターの設置
 - ・包括支援センターへ認知症連携担当の配置
 - ・障害者就労の支援機関等への適切な連携
 - ・EOD(Early Onset Dementia)の相談コールセンター：全国1カ所
- II : 診断後からのオーダーメイドの支援体制の形成
 - ・就労継続支援 - 就労移行支援 - 就労型支援
 - どの時期かのみきわめと具体的な支援方法
- III : 若年性認知症就労支援ネットワークの構築
- IV : 若年性認知症ケアの研究・普及
- V : 若年性認知症に関する国民への広報啓発など

＜中長期的対策＞

- I : EOD対応の介護サービス評価
- II : EODの就労継続に関する研究の実施

- ・日常生活、(生活上の諸々の作業行為)の障害(心身機能、活動)
 - evidenceに基づいた症候理解と具体的な支援策
- ・就労(参加、環境)
 - EODの人が行ける場所、出来ることの整理、時期による支援方法の見通し案、支援ネットワークの構築
 - 精神、発達、高次脳機能分野の就労と異なる大きな点
 - 確実に進行していくということ;この点を考慮した上でのソフトランディングする仕組みの構築が大切
 - ・進行が早い(心身機能) → 対応を早く
- ・家族への対応(活動、個人、環境)
 - 認知症の理解と相談できる所、家族への心理的サポート
 - 「生活を維持していく」ことへの相談

- ※上記への対応を行いながら「自尊心」をしっかりと支えるアプローチの重要性：Social Painを和らげる：(個人)
- 出来ることを見つける、持てる能力が発揮できる場所、役割、仕事

ICFの枠をベースに整理

Health Condition

認知症理解の図式

Impairmentや生活史がその時の状況と関連しながら
症候は出現する

私との出会い→お互いを知っていく過程(評価)

→その後どう付き合った(プラン)→いまはどうなっている(再評価)

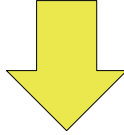
リハビリテーションスタッフとして出来ることを考えてみる

疾患、生活史、環境など様々な要因が絡み合い、
また、認知症の進行度合いによっても、その時に直
面する課題は変化していく。

多くの職種が、それぞれの専門性を活かし、その時の課題(も
しくは将来考えられる課題)を同じテーブルの上に持ち寄って
情報の共有を行うことがとても大切！

情報の共有無くして適切な支援はできない

色々な情報の共有が必要だと思われるが、
作業療法士としてチームにどのような情報を提供出来るか。
それを考えてみた・・



日常生活の様々な行為(作業)障害(更衣・整容や食事、仕事など)の観察と支援方法。
それと同時に「出来ること」、「工夫すればできること」などを整理し、それが発揮できる場所や関わり方。

→そうしたことを就労も含めた「活き活きと生きること」
に繋げられないかという視点。

ここでは、ADやFTDの病気の特性と関わり方の一例
について考えてみる。

- A氏 60歳代
- 診断:AD FAST stage:5 MMSE:測定不可
- ADL:
入浴、整容、更衣、一部介助、食事(食べ始めや茶碗を置く位置が危ないことがあり注意が必要)、排せつは場所誘導が必要。歩行は自立、会話は可能だがつじつまの合わないことが多い。

<デイケア場面でよくみられる行為>

1階と2階の風景が同じ平面上にあるかのように話す(視空間障害)。歯磨きや鉛筆書きなど人から指示された動作はできないことが多い(道具障害)。鏡の自分に向かって話をする(鏡現象)。
大きな音がすると怒り出すことがある。

一症状(着衣の支障)を例に支援する視点を考えてみる

1 着る洋服の用意(自分で取る、人に持ってきてもらい目の前に出される)



2 自分もの?どのような服と認識する(長袖、半そで、シャツ、コートなど)



3 着衣(右手をここに通して、左手はこちらから、頭をはじめに入れて・・・、などなど洋服によって方法は違い本来その方が行ってきた着方もある;認知機能と長年培ってきた習慣が融合、慣れた服なら体が自然と動く、新しい服ならば考えながら動作を行う頻度が増える)



4 整える(きちんと着衣できたか、ねじれやよじれた部分はないかの確認)



5 着ることができた(自分で行うことができた!)

実際の映像1 アルツハイマー型認知症



言葉

ああ、わたしのやつ(着物)ですよ
ね

様子 / 解釈

瞬間の聴覚、視覚情報は入っている

物体としての洋服は見える。

洋服 ← 着る ← 腕を動かし袖に通す

頭頂葉 → 運動前野 → 一次運動野 → 筋の動き ×
目的を達成するために適確に体を動かすことができない。



これは、どうなっ
て…、
あっ、これか…。

洋服を扱いながら考えている様子

ワーキングメモリーの低下によりこの時点であれこれ服を扱っているうちに「**洋服 ← 着る**」が保持できず、何をやってよいのか(何をやっているのか)解らなくなってきている。

着衣失行
dressing
apraxia



それではこれ
で…

洋服をもてあそんでいるように見える

その場の雰囲気を感じたり、何かを行っていたという思考だけが残存し、「やらなくては」「やっていた…」という思いで動作が出現している。



言葉

……こうで…
これは…
何がどうして…

様子 / 解釈

洋服を扱っているというよりは何か布の袋を扱っているような動作

この時点では当人にとって目の前にあるものは「自分が着る服」ではなく、何か別の「物」である



それはそれで…、
はいはい！

完全にそっぽを向いてしまい、「着衣」ということではじまった介護者とのやり取りはまるで**何も無かった**かのようなその場の雰囲気になる。
しかし、介護者にとって服を着てもらおうという**ストーリーはまだ続いている。**

ここに双方のストーリーの相違があるにもかかわらず、一方が自分のストーリーを押しとおそうとする関わりの中から強い拒否や不穏などが出現する。

自尊心を傷つけられる気になる;BPSDの出現

この場合、今までの関わりの流れをストップし、介入の仕切り直しを行う。

「仕切りなおす！！」

ことの意味

同じストーリーを共有するために再スタートを切ること

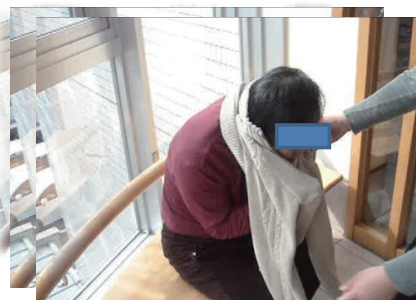
(※ 出来るはずの自分（プライド）をサポートする)



言葉

メガネ
を取り
ますよ

.....
.....



サン
キュー



にきゅうー

様子 / 解釈

お断りを言いながらメガネをはずさせてもらっている。丁寧に、申し訳ないが・・・という関わり。

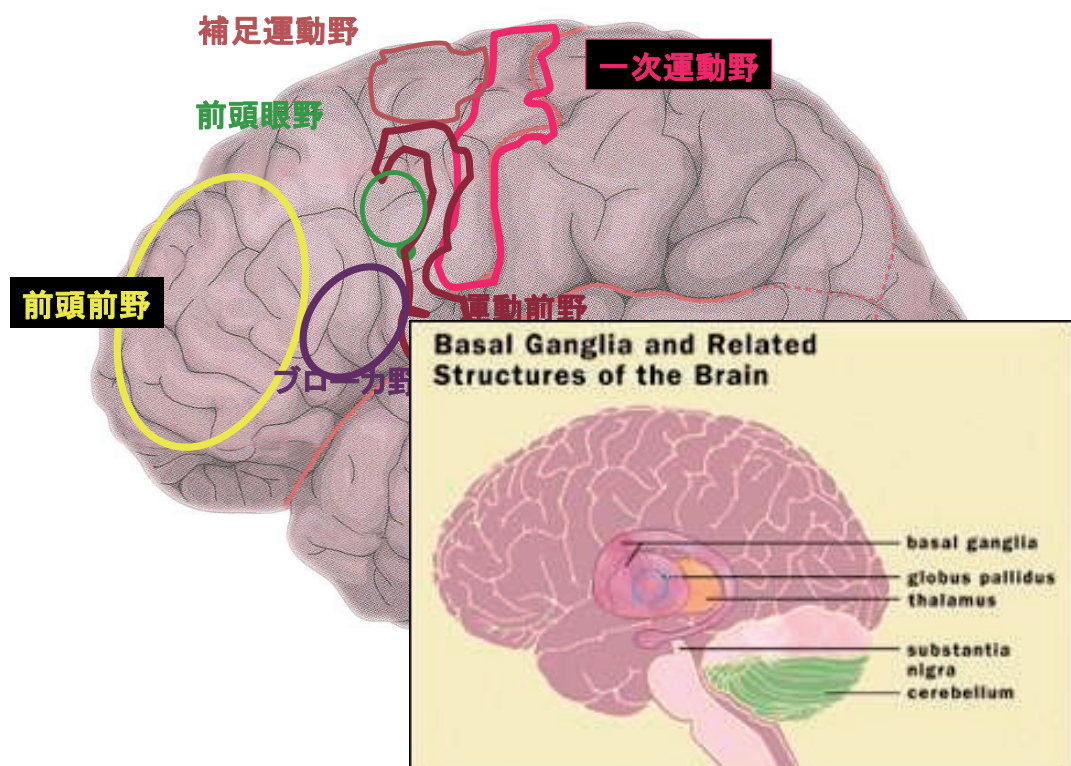
対象者の表情や反応を見ながら(自発性を言葉巧みに誘導しながら)

基低核 → 補足運動野 → 一次運動野
→ 動き

あとは自然に・・・

実際の映像2

アルツハイマー型認知症



実際の映像3
前頭側頭型認知症

実際の映像4
前頭側頭型認知症

ちょっどこだわった活動の提供例

誘い水作業：

やってもらうのではない、対象者が主体となって……

「やりたい」

「しかたないワシじゃないと…」

「誰もしないから…」

「みておられん」



まとめ

- ① 各認知症の病気による特性に対応した関わりを行うことで、混乱の度合いを減少することに繋がる。

Impairment

- ② 内発的な動作(自分でこれをしようと自発的に出てくる動作)を見逃さず、目的動作につなげていく観察やその方のくせをきちんと知っていることが大切(これまで培ってきた自分らしさ、プライドについてしっかりと考えること)。

Narrative

- ③ 若年性認知症の場合、特に就労や経済的なサポートも考える必要がある。上記①、②のことを考慮し、生活していく環境をどのように考えるか、構築するか、である。そして、早く！

Environment



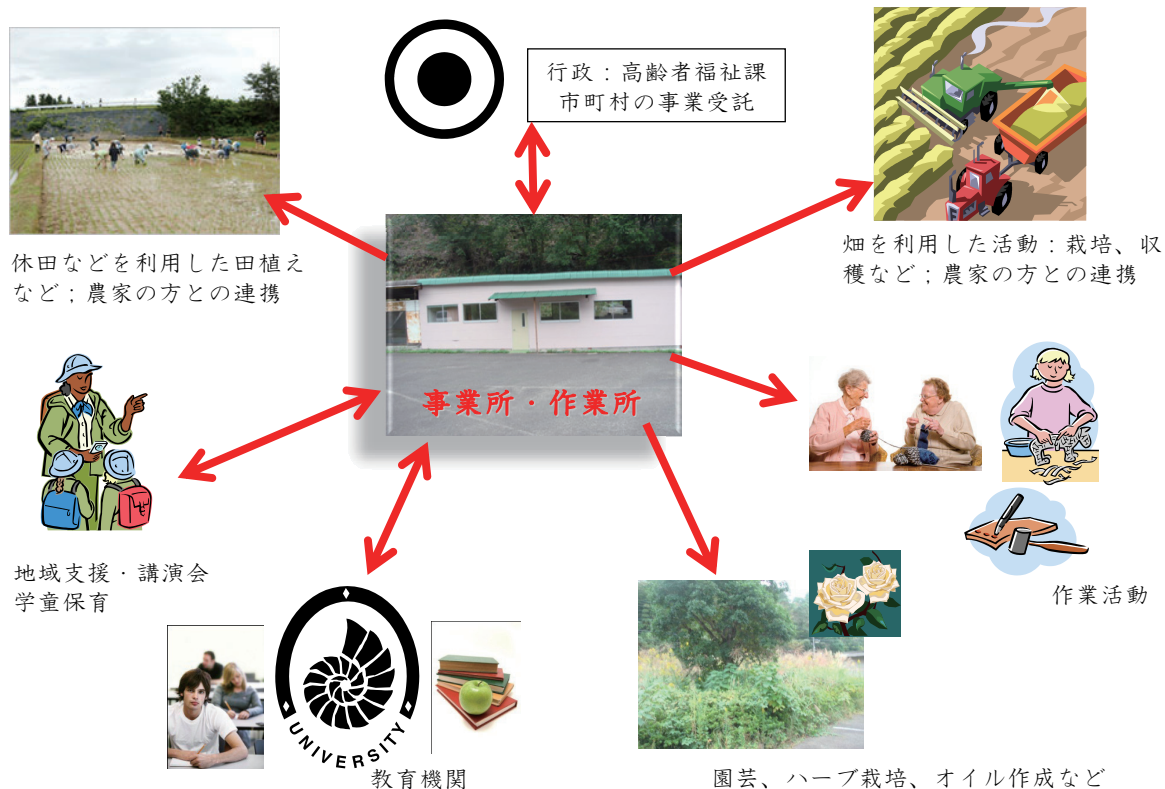
①、②を見据えながら③をどのように作っていくか！ 一つの例として…

既存の仕組みで難しいのなら・・・
乱暴かもしれませんが・・・

交渉して・・・出向いて・・・
作ってしまえ。

つながり(地域支援センター):

年なんて関係ない！病気・障害なんのその！動けるだけ動いてみる。働けるだけ働く。



なんてのもいいんじゃない！

お店、を作るつもりです。ジョイントや各地の作業所とつながって、何か出来ないかと模索中。

家族の支援について



学生の参加

認知症介護の現実を知る機会に。



平成9年 北九州市 老いを支える家族の会 に入会
平成13年 宮崎県認知症家族の会に入会

～

平成23年5月 宮崎県北地区認知症の人と家族の会発足

2か月に1回開催(社協の会議室を無料で貸してくれている)
この時は若年性AD(52歳)の夫を連れ立って参加されたご家族がおられた。以外にあっさりされている奥さんで、私が運動させていますから!とケアにポジティブだった。

旦那さんは病前はとても奥さんを大切にしておられた方で、「その恩返しです」と最後に奥さんが涙ながらに言われた言葉が印象的だった。

リフレッシュ旅行(年1～2回):

霧島温泉

演歌、軍歌 歌いまくり!!

みんな元気だった。(参加家族8
家族、サポーター12名、貸し切り
バス、2時間ほどの行程)

「夢」と「欲望(現実)」

「夢」と「欲望(現実)」が
道ですれ違った

「夢」が「欲望(現実)」に向かって言った
「おまえはいつも醜い恰好で、
少しは俺を見習えよ」

それでも「欲望(現実)」は振り向きもせず歩いていく
さらに大きな声で「夢」が叫ぶ
「おい 聞こえているのか!」

「欲望(現実)」は振り向きもせず「夢」の問いに答えた
「お前こそ自分を何もわかっていない
いつも虹のような上辺ばかりの話で人を惑わせ
消えてなくなるのを俺は知っている」

アントニオ猪木
猪木詩集「馬鹿になれ」